

授業力向上推進プロジェクト委員会

所属： 高山工業高等学校

氏名： 野添 祐輔

1 個人テーマ：ICTを活用した基礎的な学力の定着及び評価方法の研究

2 テーマ設定の理由

本校では、基礎的な単語や文法の定着が不十分な生徒が少なからず在籍しており、結果として高校での英語学習に苦勞する例が見受けられる。しかしながら、既存のカリキュラムにおいて、高校での学習内容に加えて基礎的な学習事項を学びなおす教材を用意し、それらを学習する時間を授業内に確保するのはあまり現実的かつ持続可能な施策とは言い難い。またこうした学び直しを家庭学習に期待することはさらに困難である。このような現状を踏まえ、ICTを活用することで、授業中に基礎的な学習事項を定着させる取り組みを継続・持続的な形で実施し、かつその取り組みを評価する仕組みが必要であると考へこのテーマの設定に至った。

3 研究内容（取組内容）

・基礎的な学力の定着について

今回のテーマにおいては、Quizlet、Quizzes、Kahoot、Microsoft Forms、Reading-Progressなどの学習ツールやアプリを用いて、それぞれのツールが授業においてどのような運用が可能であるかを検討した。当然ながら、それぞれのツールに特性が異なるため、状況に応じて使用する必要がある。

・Quizlet

新出単語の導入及び練習用として使用している。授業においては単語の発音の確認、フラッシュカードや音読の導入としての用途に加えて、クラスでの単語クイズとしても使用している。単語と意味を登録し学習セットを作成するとランダムに問題を生成するため繰り返し問題演習を実施できる。また、汎用性が高いため、工夫次第では文章題も作成可能である。加えて、他のユーザーが作成した学習セットを使用することが出来るため、必要なセットが利用可能なら自分で作成する手間を省くことが出来る。ゲーム形式で他の生徒と競いながら単語の反復練習が行えるため、英語学習への学習意欲の低い生徒も意欲的に取り組んでいる。Quizletは主にインターネットブラウザから使用しているが、タブレットやスマートフォンなどにアプリをインストールして使用することもできる。繰り返し学習することが容易であり発音を確認することもできるため自主学習のツールとしても適しているが、自主学習のツールとしての使用は現状ではあまり定着していない点が本校での課題である。

patient	
患者	代表、社長
たとえでも	ほかにない

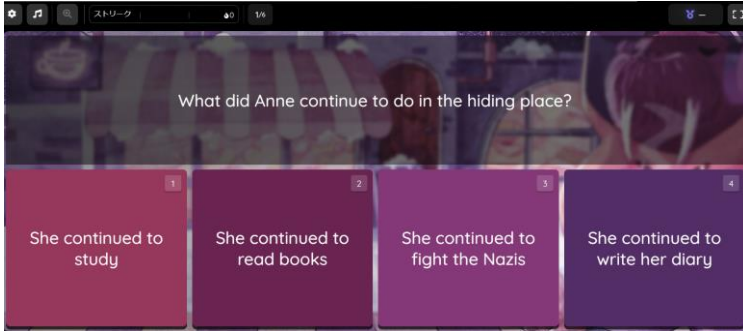
____ are in the same basketball team.
私達は同じバスケのチームに所属しています。

I	They
We	It



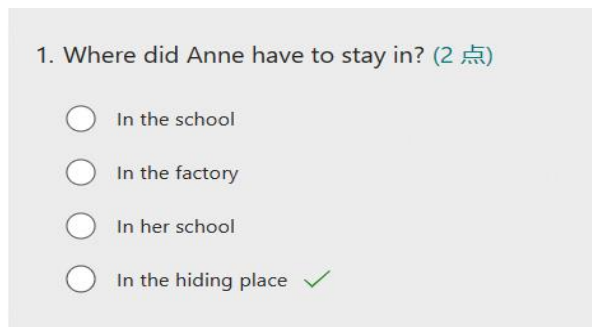
・ Quizzes、 Kahoot

択一や記述式の質問に答えていく形式となる。テキスト本文の内容など前述の Quizlet よりも複雑な内容を確認することが可能である。また、画像を挿入することも可能なため、多彩な出題が出来ることも利点である。加えて、Quizzes ではスライドとクイズを組み合わせることが出来るため、説明を聞いてから問題演習という使用が可能である。その一方で、問題作成時に複数の選択肢や比較的長い問題文を入力する必要があるため、単語と意味を入力すれば良い Quizlet よりも問題作成に時間がかかるのが難点である。しかし、Quizlet 同様に他のユーザーが作成したクイズを使用することが出来るため、学習させたいクイズが利用可能であればこうした方法で代替することも可能である。また、並び替え問題などが出題できる点は語順などの学習において利点ではあるが有料サービスであることが難点である。



・ Microsoft Forms

択一、記述形式での回答が可能であり、出題形式は工夫する必要があるものの、小テストや確認テストなどでも使用することができる。また、自動採点が可能なために省力化の観点からも優れている。加えて Microsoft Teams を通して課題として配布することで結果を蓄積して継続的に評価していくことも可能である。ただし、Quizzes、Kahoot と同様に問題の作成にはそれなりに時間がかかることや、問題形式はそのままのために繰り返しの使用にはあまり適していない。したがって、今回は主に単元やパート毎の振り返り用途として使用した。

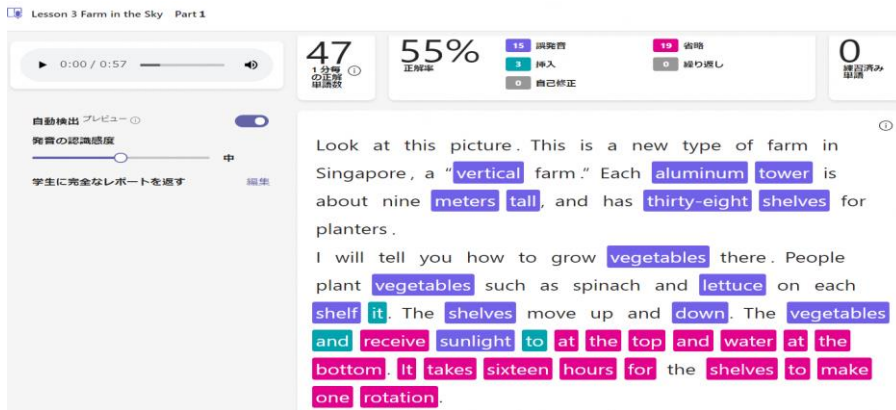


参考画像：成績の管理画面、%は課題の得点率、数字は得点を表している

受講者の検索	Q	C1_L4_P2_A Miracle Mirror_振り返り 2月 28 - 5 点	C1_L7_A Diary of Hope_P1 2月 28 - 10 点	C1_L7_A Diary of Hope_P2 2月 28 - 10 点
🗨️ クラス平均	86.5%	85.0%	82.1%	90.7%
●	92.0%	4	9	10
●	80.0%	5	8	8
●	100.0%	5	10	10
●	95.0%	5	9	8

・ Reading-Progress

Microsoft Teams 内で使用することが出来る機能である。スクリプトを事前に登録し、それを音読することで、発音、速度や正確さ等の観点から自動的に採点がされる。ただし、音読の正確さは判断できるが読み手の感情は判断することが出来ない。この機能も、Microsoft Forms 同様 Microsoft Teams から管理することが可能なため、継続的に評価を蓄積していくことが可能である。ただし、一度提出してしまうと再度挑戦することはできないので、同じ文章に繰り返し挑戦する場合には、同様の課題を複数投稿する必要がある。



4 成果

ICT を用いることによって、従来よりも比較的容易に単語や文法事項の反復練習が行えるようになった。当然ながら教材は作成する必要があるが、一度問題を作成すれば印刷する必要もなく、学校全体で教材を容易に共有可能である。加えて、これは使用する教材やレベルが共通していれば校内だけでなく学校間での共有も可能であることを意味しており、教員の持続的な働き方という点においても有益である。いずれのツールにおいても、正答率やコモンエラーを容易に確認することが可能であることから、反復練習をしつつ問題点を発見し修正する用途に適している。また、他の生徒と競うことにより英語の学習意欲が低い生徒も ICT を用いた反復練習には意欲的に取り組むことができている。評価に関しては、Teams など課題を管理すれば課題への取り組みを継続的に管理可能である。ただ、一部のツールは生徒のアカウントを作成する必要があるなど評価用として使うには工夫が必要な面もある。今回はいくつかの実践事例を紹介したが、当然ながら全てを使用する必要はなく、各校の実情やニーズに合わせた形での運用が前提となる。

ここまで、上記の学習ツールの検討を行ったが、メリットもある一方でデメリットも存在している。実際にこうしたツールを使用する場合、ネット環境に依存するものに関しては、学校のネット環境によっては接続が困難になることや、機材のスペックによっては動作が不安定になることは実際に運用を行う際にしばしば直面する問題であり過度の依存は禁物である。対策としては、事前にある程度自分で試してみることや、オフライン環境でも使用可能なものについてはデータを事前に読み込んでおけば通信障害下においても使用可能である。

5 課題

新型コロナウイルスの世界的な流行により、学校教育現場の ICT 化は急速な発展を遂げた。しかしながら ICT の大規模な導入から数年が経過したが、その効果的な運用を巡ってはまだ現場で模索がなされているところである。当然ながら、ICT はあくまで手段であり、その使用が目的化してはならないが、現状を鑑みると機材などのハード面の拡充に運用方法などのソフト面が追い付いていないことも一因として考えられる。こうした背景もふまえ、本年度は英語学習における ICT を活用した継続的な基礎力定着の取り組みとその評価について研究を実施した。課題としては、ICT は継続的な学習を持続可能な形で支援し評価するための有益なツールとはなりうるが、実際の定着度合いや効果的な運用方法に関してはまだ検証の余地がある。また本来であれば、授業時間外での自主学習用のツールとして効果を発揮するものが多いため、本校のように自主学習の習慣があまりない生徒が多い学校では効果が限定されてしまうという課題も存在している。各校において英語学習や ICT を取り巻く状況は異なるが、成功事例をより広い枠組みにおいて共有知とすることで、今後さらに効果的な指導方法を模索していく必要があると感じている。この取り組みが少しでも現場で奮闘されている先生方の一助になれば望外の喜びである。

注意：本文のリンク先の内容は、出版社の著作権を侵害しないよう再配布等をご遠慮ください。